

<令和4(2022)年度 運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	一般社団法人 横浜市都筑区医師会	事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム
所在地	(〒 224 - 0015 ) 横浜市都筑区牛久保西 1-20-21		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<p>《当事業所のケアの理念》</p> <p>利用者・ご家族の幸せの実現のために「その人の生きるを支える ～寄り添い・理解し・尊重する～」を目指しています。</p> <p>《特色》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均要介護度 4.5 で医療機器を使用している方、がんや非がんのターミナル期の看取りなど、医療依存度の高い方々が多いため、看護師の人数を充実させ、利用者・家族が安心して利用できるように努めています。</li> <li>・介護と看護の連携を高めて、自立した専門職の育成を目指しています。</li> </ul>
--

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 2 月 8 日	従業者等自己評価 実施人数	( 21 ) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 2 月 10 日	出席人数 (合計)	( 13 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 8 人) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 人) <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 3 人) <input type="checkbox"/> その他 ( 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看多機事業の目的、期待されている役割については、研修会等で伝え、カンファレンスや面接で確認する。</li> </ul> <p><u>3.4</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成計画について新任にヒアリングを行い、修正する</li> </ul> <p><u>10.</u>について</p> <p>具体的な災害を想定した訓練の実施、動けるマニュアルにする</p>	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護や新人を対象に伝えた。</li> </ul> <p><u>3.4</u>について</p> <p>育成計画について新任にヒアリングができなかった。</p> <p><u>10.</u>について</p> <p>具体的な災害を想定した訓練の実施、動けるマニュアルの作成はできなかったが、BCPを作成に着手した。</p>	<p><u>1</u>について</p> <p>職員の回答は昨年と殆ど変わらず、「おおよそできてる」と評価しているが、理念は①～⑤まで網羅しているため、継続的に職員への周知が必要だと思われる</p> <p><u>3.4</u>について</p> <p>育成計画については、看護・介護と評価指標も異なり、訪問看護・訪問介護と一体化により、育成計画を見直す必要がある。</p> <p><u>10.</u>について</p> <p>防災訓練は年2回以上、夜間を想定した訓練を開催する必要があるが、できていない。実地指導でも指摘を受けた。防災のBCPを完成する必要がある</p>
<p>II. サービス提供等の評価 (評価項目 11～27)</p>	<p><u>1～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が、利用者の病状や希望の把握など意識が持てるように介護職員も情報収集し、計画に携わる。</li> </ul> <p><u>12</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアについて実践に繋がる研修会の開催をする</li> <li>・1～2名の職員、認知症介護実践者研修の受講を促す</li> </ul>	<p><u>1～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員が、計画に携わるように働きかけることができなかった。</li> </ul> <p><u>12</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの研修会は開催したが、いつもと同じスクール式で、参加型の実践に繋がる研修会はできなかった。</li> <li>・1名の職員を認知症介護実践者研修の受講ができた。</li> </ul>	<p><u>1～18</u>について</p> <p>担当の看護師と介護職が話あつての計画作成はできなかったが、今後、事業所の一体化に伴い、各利用者の担当者を訪問看護看護師1名・看多機看護師1名・介護職1名の3名体制する予定のため、再検討する。</p> <p><u>12</u>について</p>

		<u>27 について</u> ・ 予後及び死ぬまでの経過を丁寧に説明できるように、「看取り期の在宅療養サポートマップ」等を活用し学びを深め、実践する	<u>27 について</u> ・ 「看取り期の在宅療養サポートマップ」等の活用はできなかった。	人材不足の中で最低限の研修が行えている状況、少なくとも内部の研修会の開催と外部研修受講させることは、継続が必要である。 <u>27 について</u> 看取りの研修会を対象として行う必要がある。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<u>31～33 について</u> 多機能であるため職員全員が、外部の専門職とかかわることが少ないため、運営推進会議に役職だけでなく交互に出席し、運営推進会議の役割や外部への発信の体験をする。	<u>31～33 について</u> 役職以外の職員を交互に出席させることはできなかった。	<u>31～33 について</u> 職員不足により、運営推進会議に多数の職員を参加させることは不可能だった。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<u>37・38 について</u> ・ 支援者として、利用者の ACP 支援ができるように支援事例などの研修会を開催し、理解を深める	<u>37・38 について</u> 事例を通した ACP 支援についての研修会を開催した。	<u>37・38 について</u> 今年度は 5 名の看取り支援を行った。今後も介護職も含めた、スキルアップが必要である。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<u>42・43 について</u> ケアマネや常勤看護師を雇用し、訪問看護や訪問介護の職員との一体的な運営を行う。	<u>42・43 について</u> 雇用は介護職 2 名、看護師 1 名雇用出来たが、看護師 2 名の退職、1 名の休職、介護職 1 名の退職があり、人員不足は解消しなかった。しかし、一体化が進んだ。	<u>42・43 について</u> 一体化の体制は大まかに整い、3 月には計画作成者も入職予定。今後は、業務がスムーズに流れるように、日々の業務流れ等の調整が必要である。	

※ 「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
----	------	------

<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p><u>1</u>について 職員の回答は昨年と殆ど変わらず、「おおよそできてる」と評価しているが、理念は①～⑤まで網羅しているため、継続的に職員への周知が必要だと思われる</p> <p><u>3.4</u>について 育成計画については、看護・介護と評価指標も異なり、訪問看護・訪問介護と一体化により、育成計画を見直す必要がある。</p> <p><u>10.</u>について 防災訓練は年2回以上、夜間を想定した訓練を開催する必要があるが、できていない。実地指導でも指摘を受けた。 防災のBCPを完成する必要がある</p>	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看多機理念について面接時に個別につたえる</li> <li>・事業所評価を全職員に伝達する。</li> <li>・看多機についての研修を実施する</li> </ul> <p><u>3.4</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護と看多機看護の評価指標を検討し、統一する。</li> <li>・訪問介護と看多機介護の研修計画（目標設定）を統一する</li> </ul> <p><u>10.</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練は年2回以上、夜間を想定した訓練を実施する。</li> <li>・防災のBCPを完成する。</li> </ul>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p><u>1～18</u>について 担当の看護師と介護職が話あつての計画作成はできなかったが、今後、事業所の一体化に伴い、各利用者の担当者を訪問看護看護師1名・看多機看護師1名・介護職1名の3名体制する予定のため、再検討する。</p> <p><u>12</u>について 人材不足の中で最低限の研修が行えている状況、少なくとも内部の研修会の開催と外部研修受講させることは、継続が必要である。</p> <p><u>27</u>について 看取りの研修会を対象として行う必要がある。</p>	<p><u>1～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の担当制を明確にして、担当者毎に計画立案を相談するシステムを構築する。</li> <li>・介護職と看護職との合同カンファレンスを定期的で開催する</li> </ul> <p><u>12</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引等の資格取得研修、認知症実務者研修は、受講を促す。</li> <li>・看護師が介護職へ医療ケアについて研修会を開催する</li> </ul> <p><u>27</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員向けの看取りの研修会を実施する</li> </ul>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p><u>31～33</u>について 職員不足により、運営推進会議に多数の職員を参加させることは不可能だった。</p>	<p><u>31～33</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部との接触として運営推進会議に役職以外の職員を参加させる。</li> </ul>

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<u>37・38 について</u> 今年度は5名の看取り支援を行った。今後も介護職も含めた、スキルアップが必要である。	<u>38 について</u> ・1と同じ <u>41 について</u> ・外部に向けた研修会を開催する 例) ACP について「もしバナゲーム」など ・研修会開催時に看多機の周知をする
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		<u>42・43 について</u> 一体化の体制は大まかに整い、3月には計画作成者も入職予定。今後は、業務がスムーズに流れるように、日々の業務流れ等の調整が必要である。	<u>42・43 について</u> ・一体化の体制を構築し、利用者の受け入れを積極的に行う。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げ	5	15	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①~⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①~⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・①~⑤の理念を掲げているため、「よくできている」になるが、職員への周知ができていない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ている						
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	5	15	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・理念はかかげられ頭に入っているつもりだが、日々見直すようにしたい。 ・今年度も、職員の理解を深めるために、看多機とは研修会は開催した。					
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	13	6		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護リーダーを中心に、年度末と年度はじめに全職員の面接を行い、各自作成しているが、年度の中盤でも面接をし、目標達成状況の確認が必要だと思われる					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	3	15	2		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 喀痰吸引等や認知症の研修会は、事業側から声をかけているが、人数は限られている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	9	11	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 定期的なカンファ開催とその記録、伝言機能や記録、申し送り等を活用し、利用者に対する情報共有ができています。							
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	4	13	4		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議は、報告書を職員に共有しているが、今年度は、大型マンションの駐車場確保について、アドバイスを受けたが、対象事例はなかった。アドバイスももらったら、反映するようにしている。							
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	3	15	2	1	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」な</li> </ul>
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 全くできていない、あまりできていないを選択した職員は、深夜勤体制の継続への不安がある。また、常勤が定時で帰れない、非常勤の負担の偏りなど、職員か							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		らの意見がある。					どが考えられます
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	7	12	2		特になし	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・スマイル伝言機能、個別のファイルに添付、申し送りノート等により、職員間で迅速に共有できるよう工夫している。 ・更新が追い付いていないこともある					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	5	16			特になし	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時において	4	14	3		特になし	✓ 「緊急時におけるサービス提供



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	も、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・災害マニュアルの内容を周知するため研修を行った。BCP作成を開始した。 ・地震時に年に数回、マメールで職員へ安否確認の訓練を行い、全員が状況を返信している。					のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	15			特になし	✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	2	18	1		特になし	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたア

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
		ている」と回答した職員が多い。					セサメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	6	15			特になし	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	4	16	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の	4	17			特になし	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 殆どの看多機計画書は、利用者の状況変化予測とリスク管理を踏まえ作成されている。「おおよそできている」が多いのは、介護職の理解不足や看護師の「リスク管理」の視点に自信が持てないものだと考えられる。					理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	6	15			特になし	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	5	14	2		特になし	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標	5	16			特になし	✓ 「利用者等の状況変化や目標の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている						達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有について、充足度を評価します
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	5	15	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている。	7	13	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
② 看護職から介護職への情報提供および提案							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	3	18			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b>					
		看護職は、介護職の意見を反映した計画を立てることになっているが、現状では看護師の立案になっている。積極的な情報提供までには至っていない。					
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	5	16			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b>					
		利用者家族に最初に説明するのは、殆どが計画作成者である。パンフレットや重要事項説明書、契約書を見せながら説明し、おおよその料金も提示している。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	5	16			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b>					
		毎月、計画作成者が訪問をし、療養について、説明を行っている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方	5	16			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b>					
		利用者家族の負担を鑑み、医療機器が取					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	り扱えるように説明をしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	④	17			特になし	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] スタッフ不足や泊りの部屋がないなどの状況から希望通りに反映できないこともあるが、基本的には本人家族の意向を聞き、ケア内容に反映している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	④	17			特になし	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 医師と連携し、時期を見て家族に説明し意向を聞き、記録している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	8	⑬			特になし	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	7	14			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	5	16			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	8	10			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	5	13			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長等の住民代表も対象です</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	9	10	1	1	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的		11	8	2	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	な啓発活動が行われている						が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	4	8	2	5	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	13	8			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	9	10	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 人工呼吸器装着利用者の泊りの場合は、看護師の夜勤としているため、シフト調整が必要で、積極的に増やせる状況ではない。					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	14	6			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 今年度は、1月までに5名の看取りを支援しており、積極的に行っている					
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲	4	15	2		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 理念の中に、「地域包括ケアへの貢献」を掲げ、入職者に対しても地域包括ケアシステムの構築のために設置されたサービスであることを伝えているが、職員への周知はまだ難しい。					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	8	12	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		11	6	3	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ンの自治会など組織にアプローチする方が、功を奏する場合もあると、アドバイスを受けた。					<p>要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		12	7	2	特になし	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>直接、家族等には介護力の引き出しのため、相談や指導を実施しているが、地域に対しては行っていない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者について、達成されている（ 11 ）</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている（ 9 ）</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 毎月評価をして計画を見直している。</p>	特になし	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者について、達成されている（ 12 ）</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている（ 8 ）</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 平均要介護度4.4で、医療機器を使っている利用者の割合は5割、医療機器の種類は、胃瘻・経鼻胃管・気管切開・在宅酸素・人工呼吸器・膀胱留置カテーテル・腸瘻・持続皮下注などと様々なものを受け入れいている。</p>	特になし	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている( 12 )</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている( 7 )</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> <li>5. 看取りの希望者はいない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 積極的に受けれており、利用者家族の思いを大切に支援している。</p>	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</li> <li>✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます</li> <li>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</li> </ul>